

令和元年度

事業所名：グループホーム シリウス姫神

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100154		
法人名	株式会社シリウスケアサービス		
事業所名	グループホーム シリウス姫神		
所在地	〒028-4132 盛岡市渋民字駅105		
自己評価作成日	令和1年8月5日	評価結果市町村受理日	令和元年10月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan1=true&jiyosyoCd=0390100154-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年9月26日

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームシリウス姫神で特に力を入れている事は、介護計画に基づき日常生活支援をご本人様のニーズに合わせて支援することです。認知症でありながらも残存機能(記憶)に現れる自分らしさを尊厳して、心から楽しい時間を過ごして頂けるように笑顔を持って接しさせて頂きます。急がせない、指示しない、余裕のある支援を行い不安を与えない支援等に徹していきます。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近隣に、公共機関、医療機関、スーパー等がある利便性の良い場所に立地している。職員は、利用者のペースを尊重した支援を心がけており、毎朝10時半から30分間、歌や早口言葉などを入れたりハビリ体操に取り組み、車椅子利用者は1人もいない。自治会の協力もあり地域との交流は活発で、今年は中学生の職場体験学習や神社祭りの神輿がホームを訪れたり、児童館の子どもと「ようよう遊び」をするなど、地域との交流が一層増えている。9月の運営推進会議には、多数の関係機関に参加を呼びかけ、今までにない大勢の参加を得るなど、地域の事業所理解に向けた取り組みを進めている。10年目を迎える事業所であるが、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けられるように、絶えず工夫し、取り組んでいる事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム シリウス姫神

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔でそっと見守る穏やかな日々を目指します。」理念を共有して、地域密着型サービスの意義を自覚し管理者と職員は、共に理解しあって実践しています。	理念は、職員が日々意識確認できるよう、廊下と事務所に掲示している。運営方針で定める「安心と尊厳のある生活、生きがいと楽しさを見いだせる環境、地域との交流」を目指し、理念の実践に努めている。	10年目を迎えるに当たり、現在の理念が利用者の状況や地域の変化に合っているか、運営方針が具体的実践目標を示すものとなっているか等、全員で話し合い、再確認することを期待します。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や年間を通して敬老会時の保育園や定期的ボランティア、年に数回の中学生の職場体験等で地域との繋がりを保ちながら地域の一員として交流を目指している。	自治会には、未加入だが、広報の回覧や地域の祭り、行事の招待等、様々に自治会の協力をいただいている。2カ所の保育園児とは、敬老会の日に踊りやゲームをしたり、散歩の途中に立ち寄りたりと交流があり、傾眠状態の利用者に日頃ない笑顔が見られ、子どもたちには競って利用者と触れ合う姿が見られる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	天気の良い時に近隣の散歩を職員と行い、その際、隣人の方々と笑顔の交流を持ち認知症のご理解をお願いしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の人的都合により平成31年度の当初、運営推進会議開催が遅れたことがあったが、今後は人的にも充実したので、サービス実施や評価を運営推進会議で頂き、今後のサービス提供に生かしたいと思っている。	9月の会議では、グループホームの理解に向けて、利用者・家族をはじめ、地域の関係者に広く参加を呼びかけ、駐在所、郵便局、消防署、地域婦人部等、今までにない14名の参加となった。会議では、認知症カフェ開催の情報や消防署から、停電時の対応などのアドバイスがあった。会議はホールで開催され、利用者と委員との交流を通じ、利用者の理解に繋がっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地方公共団体と連携を強め、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え協力を築くように依頼している。特にセンター長が交渉や嘆願している。	市からの情報は、普段はメールが主で、熊出没の情報や研修案内などがある。事業所は、電話やFAXで情報の交換をしており、要介護認定申請時などには直接出向いている。今年は、運営推進会議の出席もあり、身近に相談や助言を頂く機会が増えるなど、連携が図られている。		

[評価機関：特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設において身体拘束については一切行っておらず、施設の玄関は夜間の施錠は行いが、日常的には開放しており、拘束に当るものは皆無です。更には、薬の拘束もないように家族や主治医と検討をして確認している。	玄関は、夜間を除き施錠をしていない。言葉に関しては、気持ちを抑えたり、否定したり、指示的な言葉は使用しないよう心がけ、職員会議でも振り返り職員間で共有を図っている。外出願望の強い人は職員と一緒に出かけ、電話を掛けたい人には家族の都合を考慮して掛けている。転倒予防やトイレ介助のため、鈴を活用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は職員に対し事業内で年数回の研修会を行い、その中で高齢者虐待防止法関連の内容も行っている。施設内に於いて虐待は見受けられていない。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は職員に対し事業所内で年に数回の研修会を行い、その中で日常生活自立支援や成年後見制度の内容も行っている。施設内に於いて権利擁護を活用するような動きが見られている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しご利用者様やご家族様へ不安や疑問を与えないように丁寧に説明を行いご理解を頂いている。主にご家族様への説明を深く行っている。ご本人様へもご理解を頂けるようにお話をしますが、簡単な説明に徹している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や地域ケア会議等で事業運営に関する利用者様やご家族様のご意見を運営に反映できるように傾聴している。	家族へは、居室担当者が毎月請求書と併せて利用者の心身の状況をお知らせし、家族来訪時には、利用者の日頃の様子を伝えながら、意見や要望を聴くようにしている。利用者については、普段のコミュニケーションや記録から要望等を把握しているが、現在は特に意見や要望はない。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所は、職員からの運営に関する意見や提案を書面にて受付、事業運営に反映させている。	日頃の業務を通じ、或いは毎月の職員会議で意見や要望を聞いている。発言の少ない職員は個別に対応している。本社でも、来所した際には報告や連絡事項と共に職員の要望等を聞いている。休憩時間の見直しや本社による個人面談の希望が出されている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、就業環境の整備を職員個々の状況を把握しながら整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の育成に関して、必ず個の職員が分からない時は、2名態勢で現場学習を徹底して行い、人材育成を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、同業者との交流を協会等を通じ相互交流を年に数回行い、サービスの向上へ役立てるようにしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当初のアセスメントをしっかり行い困っている事や不安な事、要望等に傾聴して、安心して暮らせるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期対応として入所申請時に書類を確認後に自宅訪問を行い、ご家族様やご本人様が困っている事や不安な事に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応の見極めとして入所決定後にご本人様やご家族様へ今後の生活構築に安心できる生活である事をご理解頂き、入所時に不安にならないように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様へ入所後は、上げ膳据膳ではなく出切る事等には一緒に動いて頂け、ともに暮らしていける関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様との関係は大変重要で、入所後の関係性をしっかり構築し共に支えている関係を保っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	馴染みの人等の関係等を大切にしたいが、年齢と共に中々、関係性の希薄さを維持する事が難しい状況です。	家族の他、兄妹や近所の人、友人等の訪問がある。「歌おう会」に毎月出かける人は、馴染みの美容院にその都度、整髪してもらい、娘のピアノに合わせて歌うことを楽しみにしている。家族等と毎月外食や外泊する人、お盆の墓参り、選挙に行く人もいる。2ヵ月毎の美容院とも馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の関わり合いは、職員がしっかり個々を把握してそれぞれの状態に合わせ支え合う様に努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されると関係性を保つ事は現実的に難しいです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者個々の思いや意向は、尊重して対応させて頂き、困難な場合はご本人様本位で対応している。	日頃のさりげない声かけや断片的な言葉から、本人の意向や思いを把握し、話が分かりづらい利用者は、家族に聞いたり、筆談で把握に努めている。アセスメントを丁寧にする事で、ぬり絵やゴミ箱作り、編み物、雑巾縫い等の特技が生かされ、生き生きした表情が見られている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様個々の生活歴は、それぞれが異なり職員が把握してサービス提供へ繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様個々の一日の過ごし方は、個々の生き方を尊重して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は、グループホームに於いてご利用者様個々の状態に応じて作成され、チームでサービス提供を共通に行って快適な生活を構築できるように支援しています。モニタリングも実施しています。	ケース記録を基に職員で話し合い、担当者が計画を作成し、見直し時には、本人・家族の意見や要望を反映したプラン作成をしている。家族へは、来訪時や電話、必要に応じて家庭訪問をして話し合い、要望等をプランに反映するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	支援経過の記録はしっかり行っており、職員間でも情報共有し実践や介護計画見直しへ活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに答える為、柔軟な支援やサービスを多機能的に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア等で個々の地域資源は、あまり関わりが多くない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、大切に思いご家族様や主治医と連携を取りながら、適切な医療が受けられるように支援している。	受診時は家族に会える貴重な機会であり、歯科、皮膚科などの定期受診や緊急時にも1人を除き家族に同行頂いており、家族が行けない場合は、職員が対応している。受診時は、必要に応じてメモや記録等を渡し、結果は、家族から聞いている。ほとんどが近くの病院のため、不明な点は看護師に聞くなど、適切な受診となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が人員配置基準にない為、主治医の看護師へ相談している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院に関しては、医療相談員や退院支援病棟看護師等と連携を取って行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期が、現れた状況下で主治医やご家族様と連携を取りながら事業所で出切る事をご理解頂きその上で対応している。	入居時に重度化や終末期の対応について、本人・家族等に説明し、納得いただいている。重度化した際には、希望する地域の医療、介護施設を紹介するなど、できる範囲の支援をしている。重度化や終末期の取り組みや方針については今後の課題ではあるが、家族等からの希望は、現在出されていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	管理者は職員に対し事業所内で年に数回の研修会を行い、その中で急変や事故発生時に備え初期対応の訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	管理者は職員に対し事業所内で年に数回の研修会を行い、その中で火災や地震等に備え初期対応の訓練を行っている。	ハザードマップでは、特に危険区域にはなっておらず、火災や地震を想定した避難訓練を実施している。6月には、職員1人体制の夜間火災を想定した消火訓練を実施した。秋の避難訓練には、自治会等にも協力を呼びかけたいとしている。備蓄は3日分あり、備品には、ランタン、懐中電灯、カセットコンロがある。	近隣住民への災害時の支援・協力の働きかけが進んでいない状況にある。運営推進会議等で、地域の協力体制構築に向けた話し合いなどを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の方々への尊重とプライバシーの確保に努め人格を尊重した支援を行っている。	職員は、利用者一人一人に合った対応や言葉遣いに留意しながら、個々の尊厳を大切にケア当たっている。衣服の着脱時は、脇で介助をする、トイレのドアは開けすぎない等の配慮のほか、トイレ誘導時の声かけなど、プライバシーへの配慮を日常的に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の自己決定に関し、尊重して対応しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のニーズにあった支援をそれぞれに行っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは、自由にできるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け(皿洗い等)一緒に行っている。但し、無理強いや強制はなく、自由に参加できるように声がけしている。	職員が、献立を立て、週3回買い出しに出かけている。利用者は下膳やコーヒー茶碗洗い等に参加している。毎月ちらし寿司の日を設け、敬老会や誕生日には、利用者の嗜好を聞いて提供するなど、食事が楽しみとなる工夫をしている。管理者は、利用者の調理参加や昼食ドライブを企画し、畑作りも再開したいとしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1食につき10種類以上の食材を含め、栄養バランスを整え水分量も取れるように管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後に口腔清潔は徹底しており、ご利用者様も習慣付いている。義歯も洗浄剤に毎日浸けて清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現時点に於いてオムツ使用者はなく、リハビリパンツとパッドの使用で、基本的にトイレでの排泄を行っているが、夜間だけはポータブルトイレの使用を行っている。	排泄チェック表で声がけし、日中は全員トイレを使用している。4人は完全に自立し、その他の利用者はリハビリパンツにパッドを併用している。夜間は3人がポータブルトイレを使用している。トイレの声がけにより排泄に失敗する方の減少に繋がっており、入居後の排泄の悪化は見られていない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防には、排便表をつけ管理を行い、下剤や冷たい牛乳等で調整している。主治医へも排便状況を上申して下剤等の処方を依頼している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は一日、4～5人の入浴で一日おきの入浴をお行っている。但し、日曜日のみは入浴が無く、万一汚れた時は清拭対応を行っている。入浴順番はご本人様のご意向を尊重している。	入浴は、日曜日を除く1日おきの11時～16時の時間帯としている。一番風呂を好む人など希望を叶え、洗髪と背中流しの介助以外は本人に任せている。体調により、清拭や足浴にしている。入浴を渋る場合は声がけを工夫するなどしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠や休息は、夜間にやたらと訪室して覚醒させないように廊下から静かに観察するようにして安眠を妨げないようにしている。休息はその都度行う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬はしっかり管理して服用時に確認を行っている。薬の内容も分かりやすく説明している。時々、服薬拒否があるが、説得して服用して頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、リハビリ体操の時に「頭の体操」「早口言葉」「月日の確認」等を行い、アセスメントで知れた各人の得意とする所を引き出すように声掛けするようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	単独外出が出来ない為、ご家族様へ協力依頼をして戸外に出かけられるように支援している。但し、地域の方々の協力は現時点では実施できていない。	日頃は、近くの介護施設まで、2,3人が10分位掛けて散歩へ出かけている。季節により花見や紅葉狩り、昼食ドライブへ出かけている。利用者の外出の機会を更に増やすために、家族に協力を呼びかけており、中には家族とオペラコンサートやドライブに出かける利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、この施設内でお金を使用するところが無く、買い物も行っていない。職員はお金に関してご利用者様へ支援を行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	複数のご利用者様のご家族様からお電話を頂き、繋いだり携帯電話を耳元に当てたり職員が支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活環境は24時間の「狂態」を考え居心地の良い空間を提供するように努めています。太陽の光が天井からホールに入るのをそれを利用したり、夜間においては常夜灯を明るめにしたり、換気扇は常時回っていたり、気体・液体・固体等を駆使して環境を作っています。	全館床暖房で、リビングと厨房等がワンフロアとなった空間に、長椅子や適所にテーブルを配置し、利用者がくつろいだ雰囲気でも過ごせるよう工夫されている。ベランダは、日光浴をしたり、小学生の下校時には、子どもとの交流の場となっている。壁面には、季節に合わせた飾り付けや利用者の作品、行事の写真が程よく展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	孤独にならないように長椅子やテーブル配置を考えてご利用者同士で話ができるような空間を作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各部屋には、写真や使い慣れた置物、絵や花(造花)等がそれぞれに置いてあってその中で暮らすことで心の安心感を得ていると判断している。	居室には、チェストが備えてあり、ベッドは、個々に合わせたリースとなっている。利用者は、衣装ケースやテレビ、時計等を持ち込み、家族等の写真や作品、優勝時の品などを飾り、夫々の思いで居心地良く過ごせる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様方々にそれぞれ特技があるので、それを活かした「出来る事」「分かる事」等を安全で自立のような形になるよう工夫しています。		